

2024 年 8 月 27 日

（宛先） 亀岡市長

住所(所在地) 亀岡市千歳町国分下ノ川 51
団 体 名 一般社団法人育ちとつながりの家ちとせ
申請者 代表者役職 代表理事
代表者氏名 石田 千穂
電 話 番 号

ふるさと亀岡まちづくり応援交付金応援希望団体登録申請書

応援希望団体として登録を希望するため、ふるさと亀岡まちづくり応援交付金交付要綱第 6 条の規定により関係書類を添えて申請します。

ふ り が な 団 体 名	いっぱんしゃだんほうじん そだちとつながりのいえちとせ 一般社団法人 育ちとつながりの家ちとせ
主たる事務所	〒621-0003 京都府亀岡市千歳町国分下ノ川 51
担当者連絡先	ふりがな いしだ ちほ 氏 名 石田 千穂
ホームページ等	https://www.chitose-kameoka.com/
団体設立年月日	2014 年 4 月
活 動 目 的	生活上の困難や生きづらさを抱える発達障害やその傾向を持つ若年者に適切な支援を提供し、保護者には支援方法を自ら実践できる形で提供することで、不登校・引きこもり・二次障害による精神疾患発症を抑止・長期化を防ぐ。生きづらさによる貧困や虐待の連鎖を生まない家庭作りの実践と社会啓発を行う。
地 域 の 課 題	不登校や引きこもりにより学校に行けないことを補填するためにその学年の学習ができていることだけがクローズアップされ、その人の持つ生きづらさの部分には焦点があたりにくく、社会で生きるためのトータルサポートが必要なことが理

	解されづらいという現状がある。 子ども達の日々の暮らしを安定した状態にし、人と関わったり活動したりする中で適切な支援を受けることは、彼らの人生を長い目で見た時自分らしく能力を発揮しながら生きる力となることは確実である。 亀岡市に学校以外で学習できる場所はあるが、支援活動を行っている場所は当法人しかない。花ノ木医療センター医師やスクールカウンセラーさんが当法人を推してくださることもあるがあまり知られていないため、さらに社会啓発と広報が必要である。 また、家庭全体の支援という意味では、どうしても生きづらさを抱える当人ばかりが目立ってしまい、現状では兄弟たちをフォローする体制がない。 障害を持つ子の兄弟は一般に「兄弟児」と呼ばれ、これまで見過ごされてきた生きづらさがクローズアップされることが増えてきた。また「ヤングケアラー」も取り上げられることが多くなり介護生活が当たり前の状況に置かれている子も少なくない。当法人の支援対象となる「生きづらさを抱える人（不登校児・引きこもり・育てにくい子）」の兄弟たちも「兄弟児」や「ヤングケアラー」と状況は酷似しており、生きづらさを抱える子に注目が当たることで兄弟たちは一人の子どもとしての尊厳が無いものとされたり、「それくらいはできて当たり前」とされがちな生活を送ることで自己評価を下げていってしまう、必要なサポートをしてもらえない、等子どもの健全な発達にとって大きな重荷になるという事実がある。
事業概要	「生きづらさを抱える人（不登校児・引きこもり・育てにくい子）」は学習面サポートの前に、人として生きる力をつける活動支援が必要であり、その支援に力を注ぎ充実したものとする。また日々の活動支援が彼らの生きる力になることを社会啓発する。 「生きづらさを抱える人」の兄弟たちが、生き生きと活動することができたり、その悩みを聞いてもらえたり、問題を解決するためのヒントがもらえたりする環境を作ることで、家族全体が幸せに過ごし将来を明るく見通せる状態に近づける。「生きづらさを抱える人」だけが主役ではなく子ども達全員が主役であり、自分のニーズを満たすことができる存在であることを活動を通して伝えていき、自己肯定できる状態にし、家族のトータル支援に近づける。

登 録 要 件	☒ ふるさと亀岡まちづくり応援交付金交付要綱第2条に規定する交付対象団体の登録要件をすべて満たしている
初年度目標寄附額	600,000 円
希望登録期間	2025 年 ～ 2027 年

応援希望団体 事業計画書

●事業名	不登校・引きこもり・発達障害等の困りのある子及びその兄弟たちへの支援活動の充実とその社会啓発
●取り組みたい地域の課題や現状	不登校や引きこもりにより学校に行けないことを補填するためにその学年の学習ができていないことがクローズアップされ、その人の持つ生きづらさの部分には焦点があたりにくく、社会で生きるためのトータルサポートが必要なことが理解されづらいという現状がある。子ども達の日々の暮らしを安定した状態にし、人と関わったり活動したりする中で適切な支援を受けることは、彼らの人生を長い目で見た時自分らしく能力を発揮しながら生きる力となることは確実である。亀岡市に学校以外で学習できる場所はあるが、支援活動を行っている場所は当法人しかない。花ノ木医療センター医師やスクールカウンセラーさんが当法人を推してくださることもあるがあまり知られていないため、さらに社会啓発と広報が必要である。 また、家庭全体の支援という意味では、どうしても生きづらさを抱える当人ばかりが目立ってしまい、現状では兄弟たちをフォローする体制がない。 障害を持つ子の兄弟は一般に「兄弟児」と呼ばれ、これまで見過ごされてきた生きづらさがクローズアップされることが増えてきた。また「ヤングケアラー」も取り上げられることが多くなり介護生活が当たり前の状況に置かれている子も少なくない。当法人の支援対象となる「生きづらさを抱える人（不登校児・引きこもり・育てにくい子）」の兄弟たちも「兄弟児」や「ヤングケアラー」と状況は酷似しており、生きづらさを抱える子に注目が当たることで兄弟たちは一人の子どもとしての尊厳が無いものとされたり、「それくらいはできて当たり前」とされがちな生活を送ることで自己評価を下げていってしまう、必要なサポートをしてもらえない、等子どもの健全な発達にとって大きな重荷になるという事実がある。
●これまでの団体の取り組みの紹介	・フリースクール事業：不登校・発達障害等の困り・育てにくさを抱える子に対し、遊び・作業・学習・ソーシャルスキルトレーニング等を実施。 ・引きこもり支援：若年層の引きこもり状態にある方に対し、社会参加を目標にフリースクール事業と同様の事業や訪問支援・生活支援を実施。 ・各種セッション：対人関係のスキルアップや心身の発達を促す必要がある子に対し個々の状態に合わせた個別プログラムによる心身の発達や対人スキル学習スキルセッションを実施。 ・相談事業：当事者又は保護者に対し、対話を通じ問題解決できる支援施策を実施。 ・指導者育成：保護者又は支援者に対し、講座・勉強会・動画資料提

	供実施。
●今回応援を希望する事業の目的	以下二点を事業の目的とする。 ①生きづらさを抱える人（不登校・引きこもり・発達障害等の困り）に対して、学習面のサポートだけでなく社会で生きて行けるようになるための生活に必要なスキル、コミュニケーションスキル、周囲と関わり合うスキル等を地道に積み上げていく必要があり、それを社会の皆さんに知っていただくこと。 ②生きづらさを抱える人が家族に居ることで、家族全体が疲弊してしまうこと、また兄弟たちに目を向けるような状態にはなりづらいことを社会に知っていただくこと、また直接関わり合い彼らのニーズを満たす支援を実施することで家族全体をサポートすること。
事業の概要	① 寄付を利用することでスクールに毎日通っている子どもたちに対し、予算を増やし支援者を増員することで大切な支援機会を掴み取ってもらい、日中活動にて今必要な支援関わりや環境設定を享受してもらい成長を促す事業とする。また、この事業の対象者を含む利用者全員の状態や支援実践前後での家庭内の生活状況変化を半年ごとに調査し有効性を示す。また、その結果を基に HP や SNS 記事としてあげ、効果的な広報を打ち社会啓発につなげる。 ② 寄付を利用してスタッフが兄弟たちと関わり合う環境を作り、保護者と共に彼らのニーズを満たせる状況を創り上げながら、彼らが尊厳を保ち生きていくことを保障する事業とする。
●事業によって期待される効果・変化	① 対象者が支援をたくさん受けられる環境設定をすることで、本人が迷っているタイミングで支援することができたり、必要なタイミングでやるべきことが示せたりし、様々な成功体験を増やすことができる。また、不登校・引きこもり・発達障害等の困りに対し、適切な関わり方に変更することで事態が改善するということを社会啓発できる。継続して変化を追っていくことでエビデンスとなりうる資料を提示でき、納得性のある広報となりうる。 ② 兄弟たちのニーズを満たすことができるようになると、保護者も安心して「生きづらさのある子」に関われるようになり、家族全体のニーズを満たすことができるようになる。その家族全体の問題解決が①の資料にも反映できる。
●事業実施体制	【団体運営の役割分担】 ・日中活動担当者：17 名（スタッフ・パートスタッフ・有償ボランティア） ・全体監修・アンケートの測定結果報告書まとめ担当者：1 名 ・広報担当者：1 名 ・事務担当者：1 名 【他団体との協力体制】 ・地域のスクールソーシャルワーカー ・所属の各学校・教育委員会

	・ 亀岡市子ども家庭課 ・ N P O 亀岡人権交流センター ・ 京都府脱引きこもり支援プロジェクト「チーム絆」
事業実施時協力者数	6 0 名程度
●情報発信方法 （寄附の獲得方法）	【誰に】 ・ 法人内部の利用者でふるさと納税の仕組みを利用していない世帯が多いと予想されること、またその祖父母が孫のために何かしてあげたいという思いを持ってはいるが何をしたいかわからないとの声もきくため、最大のターゲットとなりうること。 ・ 活動に興味を持ってくださり応援してくださる方も一定数いるが、法人として寄付の仕組みをこれまで持っていなかったこと、またご自身の支払うべき税金を有効に活用できるという仕組みなので身銭を切る必要がほとんどなく呼びかけをしやすいこと。 【手段】 ・ 法人の利用者親向けに、易しいふるさと納税の手続き方法をレクチャーする機会を設ける。また、利用者親が手続きのサポート可能になることにより、外向けに発信しさらなる活用を促す。 ・ ホームページと S N S を有効活用する。 ・ 個別にも寄付のお願いをする。その際わかりやすいふるさと納税のやり方も提示する。 【頻度】 ・ 情報発信は随時行っていく。現状ほぼ活動日ごと（週 4 日）更新している。 ・ ふるさと納税のお願いについては、年度後半を中心に三度集中して広報していく。

収 支 計 画 書

団体名 一般社団法人育ちとつながりの家ちとせ

〔収入〕

項 目	金額(円)	内訳(数量・単価など)
まちづくり応援交付金	420,000	※初年度目標寄附額の7割になります。 ※対象経費の支出合計以下の金額になります。
事業収入		
その他補助金		
その他収入	19,000	自己負担
合計額	439,000	※支出総額と同額になります。

〔支出〕

項 目	金額(円)		内訳(数量・単価など)
	対象経費	対象外経費	
事務委託費	120,000		10,000円×12ヶ月
報償費	100,000		20,000円×5回研修実施
有償ボランティア謝金	219,000		500円×438時間
支出合計	439,000	-	
総合計	439,000		※収入総額と同額になります。

※記入欄については必要に応じて追加してください。